

第9回坂東PA関連事業に関する整備方針検討委員会議事録

■日 時：令和5年7月11日（火）14：00～15：00

■場 所：坂東市役所 3階 大会議室

■出席者：委員

岡本委員長・山口副委員長・鈴木功委員・荒木委員・山岡委員・
金久保委員・古矢委員・後藤委員・青木委員・渡辺委員・五津委
員・青木委員・鈴木和幸委員・掛巢委員

（欠席：長妻委員・宮部委員・根本委員）

オブザーバー委員

平塚委員（代理：清水委員）・小針委員・松橋委員（代理：野間
口委員）・米川委員・石塚委員・會澤委員・小山委員

市・事務局

内田都市整備課長・大塚副参事・張替係長・小島主査・門井主事

●議事

（1）前回までの経過報告について

前回（第8回）までの議事内容、決定事項等について説明を行った。

（2）地域利便施設の整備・運営に関するサウンディング型市場調査の結果について

地域利便施設の整備及び運営に関し、民間事業者との対話結果について説明を行った。

（3）整備の方向性について

サウンディング型市場調査の結果を踏まえた課題を整理し、整備の方向性について説明を行った。

（4）売店の公募(案)について

売店事業者の公募に関する募集概要（案）について説明を行った。

（5）今後の予定について

地域利便施設に関する事業の進め方について説明を行った。

●意見交換での主な内容

○過去に地域利便施設と同様な施設整備を行った経験がある民間事業者とサウンディング型市場調査にて対話できたということは、市にとって貴重なご意見を伺うことができたと思うので、今後の計画に活かしてもらいたい。

○令和4年度は、いつまで続くか分からないコロナ禍で、サウンディング調査を実施したと思われるので、商業施設的な部分で考えると、民間事業者の方は、コロナがいつ頃明けるのかが確定していないのに、投資は出来ないということは当然あったと思う。

圏央道沿線は企業誘致も盛んであり、圏央道の交通量も増えているなどポテンシャルはすごいものがあると思っているので、コロナが明けた今、改めて民間事業者へのサウンディング調査を実施することも検討してもらいたい。

○今後、整備手法なども検討していくと思うが、ここを目的地とされるような施設整備を考えたとき、多くの民間事業者が興味をもってけると想定されるので、民間事業者との対話の機会を増やし計画に反映してもらいたい。

○地域振興施設として道の駅は、「わくわく感があり、そこに行けば地域の魅力が集まっているのではないか。」と、利用者が想像しやすいものであるため、施設の調査対象として道の駅を調査・研究することも必要である。

○この地域のために、ハイウェイ・オアシスでどんなサービスを提供できるかが大切になる。すべて民間事業者の方に任せてしまうと、そちらの意見だけで、地元の声が届かないなど、地元にとって残念なことになってしまう可能性もあるので、ぜひ、管理側の視点から、この地域の将来の在り方やハイウェイ・オアシスの役割を考えたときに、どのような整備の方法が良いか、整理をしていただきながら事業を進めてもらいたい。

○計画地の防災拠点としての能力を考えたとき、まずは地元の人たちが、災害が発生したときに、安全に避難することが出来るルートが確保されているか確認しておく必要がある。また、避難ルートとしての利用が想定されている道路は、災害時でも安全に通行できるような対策（かさ上げなど）が必要かを担当部署に確認しておくことも重要である。

○子育てを考えた場合、坂東市には全天候型の屋根のある施設（子どもが遊ぶ場所）がないため、雨天時に利用できる施設がある近隣の境町や下妻市に遊びに行っているようである。

市内に在住している子育て中の親子が、雨や猛暑の日にあそこに行けば屋根もあるし安心して子どもが遊べるなど、そういうところまで考えて検討してほしい。また、防災面においても、屋根付きのものがあれば、一時的な避難場所にできるなども考えられるため、ぜひ検討していただきたい。

○売店は、官民連携の取組みとして、民間事業者に建物を整備・管理していただくことは良いと思う。事業者公募については、条件等をよく整理しながら進めてもらいたい。

以上